

植栽環境に適した樹種の選抜に関する研究

【研究概要】

スギ褐色葉枯病とみられる症状が一部のスギ再造林地で集団的に発生した。この病害は地形・地質等の立地環境に影響されることが示唆され、対策としては①樹種転換、②生育不適地を回避してスギを植栽することが考えられる。令和4年度は、被害地において植生調査を行い、樹種転換樹種を選定するとともに、土壤水分量を測定し、その特徴を捉えることとした。その結果、被害地の林床に出現した主な植物は高木：アカマツ、ヒノキ、モミ、コナラ、リョウブ、低木：アセビ、オトコヨウゾメ、コウヤボウキであった。再造林にあたっては、植栽前にアセビ、リョウブ、オトコヨウゾメ、コウヤボウキが確認されたエリアではスギの植栽を避け、ヒノキ、コナラ等の代替樹種を植栽することで、被害を回避できる可能性が高い。また、被害が大きいところほど土壤水分は低く、特に激害エリアでは、降雨後であっても土壤水分が急増せず、スギは常に水ストレスを受けていた。